

外国語教育における小中連携をさらに推進しましょう

新学習指導要領では、外国語教育の課題として

- ・ 小学校の音声中心で学んだことが、中学校の音声から文字への学習に円滑に接続されていない。
- ・ 学年が上がるにつれて、児童生徒の学習意欲に課題が生じる。
- ・ 進級や進学をした後に、それまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができない。

などが挙げられています。そして、この課題を解決するためには、小中連携（小中一貫教育）を進めることが重要だと指摘しています。子供たちが無理なく知識・技能や豊かな表現力を段階的に身につけられるよう、新学習指導要領の実施に向けて小中連携をさらに推進しましょう。

<小中連携のキーポイント>

◇ 中学校卒業時で目指す子供の姿を具体的にイメージし、共有する！

外国語の担当教員が話し合う機会を設定し、中学校卒業時で目指す子供の姿を具体的にイメージし、お互いの目標として共有する。また、その目標の達成に向けて、「英語を使って何ができるようになるか」という観点で、それぞれの学校種・学年の学習到達目標を設定する。

中学校卒業時には、自信をもって自分のことや地域のことを海外の人に伝えられるような生徒にしたいですね。



それなら、まず小学校では、簡単な自己紹介や地域紹介から始めましょう。

学年が上がるごとに、自分の思いを多く語らせるようにするといいですかね。

そのために…

ポイント① お互いの授業を見合うことから始めましょう！

小学校では、中学校の英語の学習につなげるように、中学校では、入学時の学習で小学校の学びを生かすように授業改善を図ることが重要です。そのためには、どのように授業を進めているのかお互いに理解し合うことが必要です。以下のようなポイントを基に、お互いの授業を見合うことから始めましょう。



<参観のポイント>

- 子供たちがどんな雰囲気英語の授業を受けているか？
- 授業づくりの共通点や相違点はどこか？
- 発達段階（中学年・高学年・中学校）による子供の表現力や指導の違いはどこか？

ポイント② お互いの学習内容を共有しましょう！

お互いの教科書を見合ったり、年間指導計画を交換し合ったりして、小・中学校の学習内容を理解し合いましょう。「自分の夢紹介」や「自分の町紹介」など、共通したトピックを把握し、小学校での学びを中学校の授業で生かしたり、新たな語彙を活用してより豊かに表現させたりしましょう。

<プラスワンポイント>「共通したトピックでは・・・」

- ☆ 小学校で、どんな教材や教具を使ったのか確認！
- ⇒ 中学校で、それらを意図的に授業の中で取り入れる！
- ⇒ 子供たちに学びがつながっていることを意識させる！



外国語教育における小中連携の考え方は、**他の教科・領域でも同様です**。9年間で育てたい子供像を共有し、それぞれの学校種・学年で育てるべき子供の姿を明確にしましょう。